

研究課題	秋冬期における一,二年生草花の展示栽培（セントリーア）
背景・ねらい	新潟市では晩秋から早春にかけて出荷できる切花品目が少ないため、秋冬期における無加温ハウスで栽培が可能な品目・作型等を検討し、切花出荷期の拡大を図る。
担当者	海津 朋之, 山口 次郎, 渡邊 一彦
研究期間	2020～（4年目）

1 目的

秋冬期に無加温ハウスで栽培が可能であり、市場での需要が高い品目を展示栽培し、当該期に球根以外で種苗費が安く換金可能な草花類（秋播き二年草）の新品目導入のための資料とすることを目的とする。当該品目は新規。春または前年秋播種5月から8月採花が一般的な品目である。

2 方法

(1) 試験場所：農業活性化研究センター内鉄骨ハウス4

(2) 供試品種：(2品種)

クラシックロマンティック<フクカエン>

クラシックファンタスティック<フクカエン>

(3) 試験区の構成・規模

各品種各80株（40株×2反復）

(4) 耕種概要

ア 播種：7月10日

イ 定植：7月26日

ウ 栽植様式：畝幅80cm, 条間15cm, 株間15cm, 4条植え（33,333株/10a）

エ 施肥：基肥（kg/10a）N-P₂O₅-K₂O=15-15-15

追肥 生育の状況を見ながら適宜施用。

オ 電照：定植から日長延長（日没後～PM10:00）

カ 摘芯：なし

(5) 調査項目

採花日, 採花本数, 切花長, 茎径, 節数, 側枝数, 切花重

3 結果の概要（表1）

(1) 発芽は良好で生育も旺盛であった。ただし、草勢が強く、扱いが煩雑となった。

(2) 採花日は両品種とも10月前半となった。

(3) 切花長は平均で、クラシックファンタスティックで98.4cm, クラシックロマンティックが96.1cmと十分な長さのものが採花できた

4 考察とまとめ

本試験では、本来秋播き（もしくは前年秋播き）春夏採花のセントリーアを夏播き秋冬咲きの作型で栽培した。

生育は旺盛であり切花長平均はクラシックファンタスティックで98.4cm, クラシックロマンティックが96.1cmと十分な長さの切花が採花できた。ただし、草勢が強く扱いが大変煩雑となった。切花長が大きい値となったことについては、定植後高温が続き、遮光条件での栽培となったため、徒長を助長したと考えられる。また、採花の際は通常、切花長をより長くするため、できるだけ切断箇所を下部として採花が行われるが、目視できず、作業性が著しく悪かった。これらのことから、植栽間隔を広くとるなどの改善が必要であると考えられる。

表1 セントーレア切花結果

品種名	株あたり 採花本数	採花日			到花日数 (日±S.D.)
		平均	開始日	終了日	
クラシックファンタスティック	64	10/8	9/26	10/16	90.8 ±6.4
クラシックロマンティック	16	10/10	10/5	10/16	92.3 ±4.4

品種名	切花長 (cm±S.D.)		切花重 (g±S.D.)		花径 (cm±S.D.)		茎径 (mm±S.D.)		節数 (節±S.D.)	
	クラシックファンタスティック	98.4	±8.3	42.0	±19.7	38.0	±2.7	4.0	±0.7	28.5
クラシックロマンティック	96.1	±13.1	32.2	±14.2	36.6	±1.8	3.6	±0.6	30.8	±11.4

(n = 10)



図1 切花写真 (左：クラシックファンタスティック，右：クラシックロマンティック)



図2 セントーレア圃場の様子